

令和7年度 近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会が開催されました！

とき：9月14日(日) ばしょ：クレオ大阪中央

福祉は「地域」というキーワードを抜きに論ずることはできない今、「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」をスローガンに掲げ、ひとり親家庭や寡婦等の自立と子どもの健全な育成、さらにその福祉の向上を求め社会からの理解と支援を得るべく関係者が一堂に会し、本大会を開催いたしました。

○主催者挨拶



大阪府母子寡婦福祉連合会理事長の挨拶



全国母子寡婦福祉団体協議会副理事長による理事長代読

○行政説明



こども家庭庁 支援局家庭福祉課より

ひとり親家庭の現状についての報告があり、それを受けて、ひとり親家庭等の自立支援策としての「子育て・生活支援策」「就業支援策」「養育費確保等支援策」「経済的支援策」の4本柱のお話がありました。

最後に令和8年度予算 概算要求についての説明がありました。具体的にはひとり親家庭相談支援体制強化事業の補助率の引き上げ、福祉専門職を配置するための費用の補助、食料や生活物資の配布に要する費用の補助、自立支援教育訓練給付金及び高等職業訓練促進給付金の対象者要件の緩和、こどもの進路選択に活かすための体験活動に要する費用の補助等です。

○研修討議



- ・京都府母子寡婦福祉連合会副会長発表
「母子会に入らなくても支援は得られるよねと言われたこともありました。しかし私はその母子会でのつながりで助けられました。」
- ・三重県津市母子父子寡婦福祉会副会長発表

「旅行に誘われたのが母子会の活動の一步になりました。寡婦が若い母子会員のいろいろな相談に乗ってあげることが大切です。」

・堺市母子寡婦福祉会会員発表

「夫のDVで悩み、作り笑いすらできず誰にも相談できずにいました。ある時広報誌に載っていた相談にふと電話をかけてみたところ、非常に丁寧で優しく対応していただいたので前に進むことができました。」

・神戸市母子福祉たちばな会母子部委員発表

「子どもが中学校の時不登校になりました。理由が分からずもんもんとしていましたが、母親が子どもを見ていないことが原因でした。自分を見つめ直すきっかけになりました。」

・名古屋市中学生の学習支援事業 学習サポーター発表

「ひとり親家庭を支援する学習支援を受けていました。その学習会が自分にとっての居場所になり、新しい自分を見つけることができました。」

・コーディネーター（龍谷大学名誉教授）一言

「児童扶養手当の所得限度額が引き上げられ、多子加算の拡充もされましたが、こども家庭庁はその考察をしっかり行ってほしいです。支援制度はいろいろありますが、重要なことはその支援につながることです。」

○決議・大会宣言



「児童扶養手当の所得制限限度額の引き上げ緩和」「正規雇用の積極的な拡大」「保育所への優先入所、放課後児童クラブの優先利用」「不登校への相談窓口やカウンセラーの体制強化」「養育費の支払い履行を確実にするものとする制度作り」「給付型奨学金の拡大拡充」「共同親権が望ましいケースと単独親権の方がよい場合などの規準整備」「国によるひとり親家庭及び寡婦の医療費助成制度の創設」「扶養親族のいない生別寡婦や未婚の寡婦に対しての寡婦控除と同様の控除適用」「自動販売機の設置や売店の運営管理についての優先発注」 以上の決議が採択されました。

「ひとり親家庭及び寡婦のくらしの改善のために共に手を携え地域社会に貢献する団体として、総力をあげてひとり親家庭及び寡婦の福祉の向上のために努力することをここに宣言します。」 以上の大会宣言が採択されました。

○閉会のことば 挨拶

来年度の主催者（大阪市ひとり親家庭福祉連合会）より閉会の挨拶がありました。福井県母子寡婦福祉連合会岡崎会長も登壇しました。

